

原子力規制委員会  
平成29年度行政事業レビューに係る  
第3回外部有識者会合

原子力規制庁

## 原子力規制委員会

### 平成29年度行政事業レビューに係る第3回外部有識者会合 議事録

#### 1. 日時

平成29年7月26日（水） 15：30～16：47

#### 2. 場所

原子力規制委員会 会議室C

#### 3. 出席者

飯島 大邦 中央大学経済学部教授

小笠原 直 監査法人アヴァンティア法人代表 代表社員

田淵 雪子 行政経営コンサルタント

#### 事務局

原田 義久 原子力規制庁長官官房参事官（会計担当）

折橋 正敬 原子力規制庁長官官房会計部門経理調査官

中崎 尚俊 原子力規制庁長官官房会計部門参事官補佐

#### 4. 配付資料

##### 議事次第

資料1 外部有識者点検対象事業に係る所見（案）について

資料2 今後の予定について

参考1-1 放射線障害防止対策に必要な経費の概要

参考1-2 平成29年度行政事業レビューシート（放射線障害防止対策に必要な経費）

参考2-1 原子力発電施設等従事者追跡健康調査委託費の概要

参考2-2 平成29年度行政事業レビューシート（原子力発電施設等従事者追跡健康調査委託費）

参考3-1 原子力災害対策実行性向上等調査研究事業委託費の概要

参考3-2 平成29年度行政事業レビューシート（原子力災害対策実行性向上等調

- 査研究事業委託費)
- 参考 4-1 原子力災害時医療実行性確保事業委託費の概要
- 参考 4-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (原子力災害時医療実行性確保事業委託費)
- 参考 5-1 原子力発電施設等核物質防護対策事業委託費の概要
- 参考 5-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (原子力発電施設等核物質防護対策事業委託費)
- 参考 6-1 燃料等安全高度化対策事業委託費の概要
- 参考 6-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (燃料等安全高度化対策事業委託費)
- 参考 7-1 原子炉施設等の規制基準整備事業の概要
- 参考 7-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (原子炉施設等の規制基準整備事業)
- 参考 8-1 保障措置の実施に必要な経費の概要
- 参考 8-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (保障措置の実施に必要な経費)
- 参考 9-1 保障措置環境分析調査事業委託費の概要
- 参考 9-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (保障措置環境分析調査事業委託費)
- 参考 10-1 大型混合酸化物燃料加工施設保障措置試験研究事業委託費の概要
- 参考 10-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (大型混合酸化物燃料加工施設保障措置試験研究事業委託費)
- 参考 11-1 原子力施設における地質構造等に係る調査・研究事業委託費の概要
- 参考 11-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (原子力施設における地質構造等に係る調査・研究事業委託費)
- 参考 12-1 原子力規制人材育成事業の概要
- 参考 12-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (原子力規制人材育成事業)
- 参考 13-1 原子力規制高度化研究拠出金 (NRC等) の概要
- 参考 13-2 平成 29 年度行政事業レビューシート (原子力規制高度化研究拠出金 (NRC等))
- 参考 14-1 放射能調査研究に必要な経費の概要

- 参考 1 4 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（放射能調査研究に必要な経費）
- 参考 1 5 - 1 緊急時対策総合支援システム整備等事業委託費の概要
- 参考 1 5 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（緊急時対策総合支援システム整備等事業委託費）
- 参考 1 6 - 1 海洋環境放射能総合評価事業委託費の概要
- 参考 1 6 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（海洋環境放射能総合評価事業委託費）
- 参考 1 7 - 1 原子力防災専門人材育成事業委託費の概要
- 参考 1 7 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（原子力防災専門人材育成事業委託）
- 参考 1 8 - 1 避難指示区域等における環境放射線モニタリング推進事業委託費の概要
- 参考 1 8 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（避難指示区域等における環境放射線モニタリング推進事業委託費）
- 参考 1 9 - 1 環境放射線モニタリング国際動向調査等事業委託費の概要
- 参考 1 9 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（環境放射線モニタリング国際動向調査等事業委託費）
- 参考 2 0 - 1 航空機モニタリング運用技術の確立等事業委託費の概要
- 参考 2 0 - 2 平成 2 9 年度行政事業レビューシート（航空機モニタリング運用技術の確立等事業委託費）

## 5. 議事録

○原田参事官 それでは、定刻になりましたので、これより平成29年度原子力規制委員会行政事業レビューに係る第3回外部有識者会合を開催いたします。

本日、司会進行を務めさせていただきます、長官官房会計担当参事官の原田でございます。よろしくお願いいたします。

まず、配付資料の確認をお願いいたします。

○中崎補佐 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元、議事次第がございまして、おめくりいただきますと、資料1、所見（案）についてという資料がございます。その次に、最後に、資料2、今後の予定についてという資料がございまして、それで、参考資料として、前回、第2回会合で使用させていただきました

した各事業のPR資料と、それから行政事業レビューシートを準備させていただいてございます。

以上でございます。

過不足あれば、事務局まで適宜お申しつけください。

○原田参事官 それでは、議題に入ります。

有識者点検対象は20事業ございます。これらについて、前回会合での質疑内容を踏まえまして、事務方において有識者所見（案）を作成いたしました。本日は、事業ごとに所見（案）を読み上げさせていただいた上で、先生方からコメントをいただければと存じます。

それでは、資料1の事業番号007について説明をお願いいたします。

○中崎補佐 それでは、まず、順番なんですけれども、急遽の予定が入りまして、順番を入れ替えさせていただきました。

まず初めに、原子炉施設等の規制基準整備事業のほう、事業番号で申し上げますと0026番、ページで申し上げますと2ページ目でございます。こちらのほうでございます。前回、第2回会合でいただいた質疑等を踏まえまして、そのいただいたコメント等を私ども、メモを起こさせていただいたものでございます。

所見として、案としましては、まず一つ目でございますが、活動指標について、1回あたりの会合への参加人数が固定されていないのであれば、参加回数ではなく参加人数による記載方法もしっかりと検討すべきではないかというコメント。

それから、成果目標については、基準の見直し以外に何か定量的な別の指標を用いることもしっかりと考慮すべきではないかといった御意見があったかと思えます。

こうしたコメントにつきまして、ここはこういうふうな趣旨であったとか、そういった御意見、あるいはここ、こうしたほうがもっとわかりやすいとか、そういったようなコメント、御意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○原田参事官 ただいま御説明申し上げた事項について、コメント等あれば、お願いいたします。よろしゅうございますか。

それでは、担当課から、補足的に何か申し上げることあれば。

○岩澤補佐 技術基盤課の岩澤と申します。

前回も御審議いただきまして、我々のほうでも前回やらさせていただいたとおり、金額も2,400万から29年度は1,800万と下げた中でおいて、新規制基準のあり方について、毎年毎年、日々向上していくためのノウハウや新しい知見があれば、どんどん組み入れるため

の予算でございまして、少ない金額ながらもありますけれども、そこの中でしっかりとやっていきたいというふうに、コメントいただいた内容についても、引き続き検討しながらやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○原田参事官 それでは、次の事業について説明をお願いいたします。

○中崎補佐 次が所見の資料1の1ページ目に戻りまして、一番最初の事業でございます。事業番号0007番、事業名称が放射線障害防止対策に必要な経費ということでございます。

私ども検討しました所見（案）としましては、立入検査の件数については見込みと実績の差が激しいので、計画を立てる際に十分に精査されたい。

立入検査の件数のように、増えれば良いという性質のものではないものを指標として用いるのは妥当であるのかと。検査の対応率、検査によって改善された成果など、活動指標の改善について検討すべき。

資金の流れ欄に記載されている情報処理業務庁費について、委託等の種別等詳細を記載すべきである。

それから、執行額と費目・使途欄に記載されている金額の計に乖離があるので、正確な数字に修正されたいと。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、先生方からコメント等あれば、お願いいたします。

お願いいたします。

○田渕委員 所見（案）、ありがとうございます。

まず、1点目については、後ほど文言の修正はあるかもしれませんが、概ね了解でございます。

2点目は、「立入検査の件数のように」ではなく「申請届出等の処理件数のように」、「妥当なのか」ではなくて「適切とは言えない」、ですね。

「検査の対応率」に関しては、これだけではわかりづらいので、実施すべき検査に対して確実に実施したかというように、もう少しわかりやすい言い方にさせていただいたほうが良いと思います。

「検査の対応率」「検査によって改善された成果など」は、それぞれ活動指標と成果指標であるにもかかわらず、「活動指標の改善」になっているんですね。前段の対応率は活

動指標、たしか飯島委員からコメントがあったかと思うんですが、改善された成果は成果指標という形で指標化する、指標について見直すべき、というところです。

3点目についても後ほど文言修正をさせていただきますが、資金の流れについて詳細にすべきである、としていただきたいと思います。

最後ですけれども、「金額の計に乖離があるので、正確な数字に修正すべき」とあるんですが、数字修正すればいいものではなくて、そういうことを申し上げたいのではなくて、正確な情報に基づいて評価を実施すべきであると、そういうことでございますので、ここはそうした形で修正していただきたいと思います。

○中崎補佐 承知しました。

○原田参事官 ほか、いかがでございましょうか。

○飯島委員 私も、田淵委員がほとんど言っていたので、特段細かな点についてはつけ加えることはございませんけども、やはりこの指標のことについては、かなり根本的にちょっと見直していただきたいと思いますというところがございます。なかなか難しい面もあるかと思っておりますけれども、やはり妥当なのかとか、かなり弱い表現にはなっておりますけれども、もう少し強い表現かなというふうな印象を持っております。

以上です。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、ただいまのコメントにつきまして。

○西田管理官 放射線規制部門の安全管理官の西田でございます。コメントありがとうございます。

ただいま御指摘いただいた事項につきまして、立入検査の指標につきましては、今後修正といいますか、見直しを図っていきたいと思っております。28年度につきまして、予定の計画よりかなり多目になっているという実績の事情でございますけれども、実は、29年度にRI法今回改正をさせていただきましたが、RI法の改正の見込みがあったということもあって、RI施設の立入検査につきましては、目標として、対象事業者が大体4,000事業者ほどあるんですが、少なくとも10年に1度は必ず立入検査に入る。検査官が大体今20人弱しかいなくて、それぐらいの方々が許認可の審査兼立入検査を両方やっているということがありまして。これまでだと10年に1度も行ってないような状況もあって、それは改善しなきゃいけないということで、10年に1回は行くようにしようという形でやるということがありまして、それで少し前倒しに検査を増やしたということがあって、28年度だけ少し

増えたという形になってございます。

また、29年度以降につきましては、きちんと計画を精査した上でやっていきたいと考えてございます。

また、指標につきましては、単なる件数ということではなくて、立入検査をしたときにどれぐらい指導したとか、どういうふうに変更をしたというのを報告としてまとめておりますので、そういった結果などを指標の中に入れ込むことで、立入検査の検査の効果がどうだったのかという辺りを指標としてわかるようにしていきたいと考えてございます。

それから、後段のほうの御指摘いただきました情報処理業務庁費のほうでございます。こちらのほうは、資料のほうが精査がきちんとしてなくて、正確でなかったことは大変申し訳ないと思っております。数字は、今精査をしまして、修正したものを差し替えさせていただきたいと思っておりますけれども、今申し上げたほうがよろしゅうございますか。

○田淵委員 きちんとした形で対応いただければ、時間の関係もでございますので。

○西田管理官 はい。わかりました。じゃあ、そのような形で対応させていただきたいと思っております。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、次の事業について説明をお願いいたします。

○中崎補佐 次の事業でございます。事業番号0008番、原子力発電施設等従事者追跡健康調査委託費でございます。

所見（案）でございます。指標を変更したことに関する補足説明を記載すべき。また、変更後の指標である依頼文書数の推移もあわせて記載すべき。

点検・改善欄の事業の有効性の欄においては、「当該調査分野の成果報告会を開催」という記載があるが、平成28年度から代替指標の設定を変更しているもので、これに合わせた記載の表現へと見直すべきではないかと。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等あれば、お願いいたします。よろしゅうございますか。

であれば、何かございますれば。

○佐藤課長 放射線防護企画課長の佐藤でございます。

この度は事業につきまして御評価いただきましてどうもありがとうございます。

今回いただきました御所見でございますけれども、私ども、もう全くそのとおりの御指



摘ということで、少し反省も含めて、適切に実施していきたいと思っています。本来、指標を変更したときの説明具合も当然でありますけれども、その変更後の指標であるようなものについても、あわせて記載すると。要は指標に対するそうした適切な評価ができるような形で、そういった指標を記載していくと、当たり前のような話ですけども、これができてなかったというようなことですし、代替指標の設定を変更しているということであれば、当然のことながら、またそうした見直しもということでございます。

いずれにせよ、御指摘いただきましたことについては、しっかりと対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○原田参事官 それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、原子力災害対策実行性向上等調査研究事業、事業番号0054番でございます。

所見（案）でございます。これまでの執行率と今後の計画を踏まえると、平成29年度予算は過大ではないか。平成30年度要求に当たっては、しっかり見積もりの精度を上げて必要額を計上すべきであると。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明について、コメント等あれば、お願いいたします。よろしゅうございましょうか。

それでは、担当課からコメントがあれば、お願いします。

○佐藤課長 引き続き佐藤でございます。

こちらの事業につきましては、まさにこういうレビューシートの中で、先日、御説明した際に、執行率がそういったある意味ふらふらしているというんでしょうか、ある年は40%に満たない、あるいは、この事業そのものを通して全体的に70%前後ということでございます。事業内容がちょっといろいろと幾つか絡んでいたということもありましたけれども、これまでの事業の経験とか、あるいはプロジェクトの見通しをだんだん明らかになってきております。そうしたものについて、見通しを明確にして、無駄のない適切な予算要求をしていきたいと思っております。現在、鋭意精査をしているところでございますので、御指摘についてはしっかりと対応してまいりたいと思っております。

○原田参事官 お願いします。

○小笠原委員 御説明ありがとうございます。

この事業、あれですかね、前回の御説明のときに、大きく四つの骨子があるということで、サイバーセキュリティとか、核燃料のという話でしたか。

○佐藤課長 それとは別です。

○小笠原委員 これは別ですか。わかりました。

じゃあ、どんなふうに。

○佐藤課長 こちらの事業は、大きく言うと二つになります。

○小笠原委員 二つですか。

○佐藤課長 二つの柱でして、一つは緊急時対応について、よその国とか、国際機関がどういうふうな対応をしているのかというのを参考にして、この分野での我が国のそういった緊急時対応の約束事をブラッシュアップしていくと、これが一つ。

もう一つの柱が、実際に私どもがそういった防護措置、原子力災害のための防護措置の中でお示ししているような対策が本当に実行性を持つのかというものについての調査研究ということで、具体的には屋内退避の実行性という。

こちらの大きく2本でありましたけれども、特にいずれについても、先日、御説明申し上げたのが、少し組織改編のある中で、いわゆる旧JNESがうちに取り込まれたときの、ちょっとそういうときの事業の実際のうちの中での分担、新しい組織、吸収した組織の中での分担とか、あるいは屋内退避の検証事業についても、まだこれも着手したときの状況だったということもあって、少し見通しが甘かったというところが実情でございます。

○小笠原委員 この中の後者に上げられた屋内退避の部分にちょっと予算をかなり重きを置いてやっているということですね。

○佐藤課長 はい。結構そういったものをつくるようなところもあったので、ちょっと当初、年度内にできると思っていたものができなかったということもありました。

○小笠原委員 わかりました。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

○小笠原委員 はい。

○原田参事官 それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、事業番号55番でございます。事業名称が原子力災害時医療実行性確保事業でございます。

所見（案）でございます。成果指標に災害拠点病院の整備地域数がハード・ソフトどのような面でクリアされて指定を受けるに至ったのか、現状どうなっているのか、といった

ような観点の記載を充実させるべきではないかと。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明に対して、コメント等あれば、お願いいたします。

お願いします。

○田渕委員 私がここで申し上げたかったのは、要するに、ゴールを設定して、何ををもって成果と言えるのかと。そういったところをしっかりと見極めた上で、計画的にスピード感を持って対応すべきであると。必要であれば予算もかけてもいいのではないかというコメントもさせていただいています。スピード感、そのの部分に関してはしっかりと対応していただきたい。

それから、ハードが整備されても、専門医のドクターが足りなければ機能はしないので、そういったところに関しても、自治体のニーズがあれば、それに確実に対応していただきたいと。国民の皆さんの安心・安全につながるように、ハード、ソフトの現状等、原子力災害時医療の状況、現場の状況についても、国民のみなさんに現状を示す必要があるのではないか、というコメントをさせていただきましたので、そういった観点で所見をまとめていただければと思います。

○中崎補佐 承知しました。

○原田参事官 ほかにコメントは、よろしゅうございますか。

○田渕委員 飯島委員が成果指標としてのところで、エリアの優先順位のお話もされていたかと思うんですね。この点、非常に重要だと思いますので、所見として、飯島委員、取り入れられたらいかがでしょうか。

○飯島委員 そうですね。私のほうで、たしかエリアの重要性というのは述べさせていただいたと思いますので、もしよろしければ、規制庁としてどういうところを優先順位として考えているのかと。それに対して、じゃあ、整備状況はどういうふうに進んでいるのかというのをもう少し明確に示していただけるとよろしいのではないかと思いますので、御検討いただければと思います。よろしく申し上げます。

○原田参事官 ありがとうございます。

いただいたコメントについて、担当課から何かございますか。

○佐藤課長 佐藤でございます。

幾つか御指摘いただきました。まず、スピード感を持ってというのは、ありがとうございます、私どもも大変心がけているところでございます。ただ、一つ、私ども、困ってい

るというか、少しサポートで考えているのが、具体の拠点病院とか、協力機関というのが最終的には、やはり各地域の地域防災計画に関わる部分があるものですから、最終的にはこの仕組みとして、道府県がそういった拠点病院などを指定するという仕組みになってございます。それで私どもは、その拠点病院の上位に来る各種の支援センターを国として指定するという事です。

ただ、我々、だからといって、決して全然別物と考えているわけではなくて、いわゆる支援センターを通して、その地域の拠点病院とか協力機関がしっかりと機能するように、これはもうハードもソフトも踏まえてですけども、というような形で整備したいと思っていますので、こうしたスピード感というところは、そういった支援センターをできるだけ活用しながら、そうした指定が円滑に、できるだけ迅速に進むように引き続き対応していきたいと思いますので、そういったものの指標というので、どういうものがあるかというのは少し考えてみたいと思っております。

もう一つ、二つ目あったのは、ハード、ソフト、両方でわかるようなということでございまして、これも全くそのとおりで、私どもも感じているところでございます。私どもが直接、地域の住民の方というよりは、各地域の医療関係者の方と接するような機会も、そういう支援センターを通してでもありますし、年に1度は必ずちょっと、今年であれば、春に全国のそういった関係医療の方、できるだけお声がけして、どういった事業、取組をしているのかというのをお伝えして、なおかつ、何か要望があればというやりとりもさせていただいているので、そうしたものを通して、ハード、ソフトで、各地域の医療機関がまずはそういった理解を進めてもらうということが、これもまた大事だと思います、スピード感に関わってくるかと思えます。

それで、3点目の飯島先生がおっしゃられたエリアの優先順位のことでありまして、まさにちょっとそのところが私ども、率直に申し上げますと、もうすぐにでも全部つくり上げたいというのが率直なところでもあります。優先順位を設けて、まずはこのところを集中的にとっても、相手の道府県のあることでもありますので、ちょっとなかなか難しいところありますが、そうはいっても、これももう何となくおわかりかと思えますけど、実際に原子力発電所が稼働している地域は、防災業務計画、地域の防災計画もしっかりつくり上げているような状況ですから、自然とそうなると、拠点病院とか、そういった医療体制も、それにできるだけ一緒になってつくり上げられていくという傾向はございますので。

その優先順位というほどのところがどこまで示せるかは、ちょっとまた考えたいと思

いますけれども、いずれにせよ、そういった、やや相手のいる話ではありますけれども、我々としても、そこはしっかりと促すような対応はしていきたいと思います。ありがとうございます。

○小笠原委員 このプロジェクトの案件に関しましては、先日も視察をさせていただいておりますけれども、田淵委員が御指摘のように、これはやっぱりスピード感を持って、予算をかけて、やるべきことはやられると。これは、福島県立医大というのは割と先進的な取組を相対的にはなさっていらっしゃるというふうには思いますけれども、やはり緊急時のときに果たして、本当にこれだけのそういう災害が起こったときに対応ができるのかというようなことでいうと、まだまだ実際に現場に携わっている方も心細く思われている部分であろうかと思っておりますので、果断に、そして、予算もしっかりかけて、安全を築いていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○佐藤課長 ありがとうございます。

そうした、小笠原委員おっしゃるように、現場の方が熟度があんまり高くないときには、やっぱりそれをサポートするそういった設備とか、そういった機材とかが大事になってくることが多うございます。今回、必要ならば予算をかけてというお言葉をちょっといただきましたので、決してそれに甘えることなく、できるだけ迅速、スピード感を持って対応できるように取り組んでまいりたいと思います。どうもありがとうございます。

○原田参事官 よろしゅうございましょうか。

ありがとうございます。

それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号42番、事業名称が原子力発電施設等核物質防護対策事業でございます。

所見（案）でございます。コスト削減や効率化に向けた工夫欄、というのがレビューシートでございます。その欄に、競争性を高めるための取組、これをしっかりと明記すべき。それから、防護措置の強化に係る技術動向調査等に関して具体的に検査等で生かされた件数を定量化して成果指標に設定する方がよいのではないかというサジェスション。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明に対して、コメント等あれば、お願いいたします。

お願いします。

○田淵委員 1点目、文言の熟度の問題で、後ほど精度を高めていきたいと思いますが、

この工夫については、評価がなされていないということで、これまでに競争性を高めるための取組を実施してきたのであれば、それをしっかり説明する必要があるということなので、その方向で修正していただきたいと思います。

○中崎補佐 はい、承知しました。

○原田参事官 いかがでございましょうか。

お願いします。

○飯島委員 私のほう、2番目のほうの指標に関して、成果指標に関して述べさせていただきました。基本的にはこれで結構だと思うんですけども、ただ、例えばこれ、補足的に何か、検査等で生かされた事案についてどの程度重要度があるとか、何かそういう補足説明か何かがあれば、よりわかりやすくなるのかなというふうに思います。件数は件数で、指標という点では結構かと思います。

○原田参事官 よろしいですか。

ありがとうございます。

ただいまいただいたコメントについて、担当課から何かございますれば。

○吉川補佐 1点目でございますが、工夫があれば、それを書くということで、これについてはよく精査をして、そういったことも必要に応じて記載させていただきたいというふうに思います。

2点目のほうも、どのような工夫はしたとか、そういった補足説明的なものも、精査した上で、必要に応じて記載をさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○原田参事官 ありがとうございます。

それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、事業番号18番、燃料等安全高度化対策事業でございます。

所見（案）でございます。JAEAの落札率が可能な限り公開されるよう、規制庁から引き続き指導すること。活動指標について、公表されたもの以外に審査中のもの等も含める等柔軟な記載にする方が単年度の成果がよりわかりやすくなるのではないかというサジェスション。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明について、コメント等があれば、お願いをいたします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 JAEAの落札率は、これ以外の事業に関しても同様に対応していただきたいのですが、ここでのポイントとしては、再委託先の契約状況、これもよくわからない状況になっておりますので、JAEAに関して、再委託の契約状況についても引き続き指導していただきたいと思います。

それから、JAEAの落札率のコメントは、活動指標についての下に、1点目ではなくて2点目で結構ですので、コメントの順番を変えてください。

○中崎補佐 はい。

○原田参事官 ほかにいかがでございましょうか。飯島委員からもコメントいただいています。

○飯島委員 最後の文言で、単年度の成果がよりわかりやすくなるということで、確かにわかりやすくなるんですけど、やっているということが明確に示せるというふうな意味合いがあるかと思っておりますので、わかりやすくというよりは、もう少し成果をもう少し明確に示せるというんですかね、やっていますということ、成果が上がっていますという、そういう意味合いを強めるためにこういうふうにしたほうがよろしいのではないかというふうな意味合いで、こういうコメントをさせていただきましたので。多少そこで文言でもし工夫ができるのであれば、ちょっと直していただければというふうに思います。

○中崎補佐 承知しました。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、ただいまいただいたコメントに対して、担当課から何かありますれば。

○永瀬管理官 指標としての論文でございすけども、論文を書くこと、それから、論文を投稿するという事は、研究者としてはかなりの労力でございますので、それを評価していただける形に示すということはよろしいんですけども、投稿しても必ずしもアクセプトされるとは限らず、リジェクトというケースもありますし、それから、規制庁の考え方としては、やはり外部の方々に成果を見ていただけるという形になったところでアウトプットが出たという判断をしたいというふうに基本的には考えております。

単年度の研究の成果、あるいは進捗というものは、学会発表等で行っておりますので、そういう形でお示ししたいというふうに考えております。

○飯島委員 わかりました。まあまあ、そういう、確かにリジェクトされる可能性というのは結構あるかと思っておりますので、あとは、どういうところにアプライするかというのによっても多分数字が変わってくるので、その辺、もし、その辺のところ総合的に判断してい

ただいて、ベストな示し方を御検討いただければというふうに思いますので、お願いします。

○原田参事官 よろしいですか。

○永瀬管理官 はい。

○原田参事官 ありがとうございます。

それでは、よろしければ、次へ進みますが。

それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、3ページ目になります。事業番号38番、保障措置の実施に必要な経費。

所見（案）でございます。代替目標、代替指標を検査の合格率とするのであれば、各年度の目標、実績欄の記載も実数ではなく百分率で記載すること。

活動指標のデータ件数についても、処理しなければならない数に対して処理できた件数という割合で表記することも検討すべきではないか。

資金の流れ欄について、事務費の内訳を記載すること。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明に対しまして、コメント等あれば、お願いいたします。

田渕委員、お願いします。

○田渕委員 まず、1点目、パーセンテージで対応率を出すだけではなくて、その実績がわかるように式も明記することが重要だと申し上げたかと思っておりますので、その部分はしっかり入れ込んでいただきたいと思っております。

あと、文言の話になりますけど、最後の資金の流れ欄については、内訳を記載することが必要なわけではなくて、事務費について委託等の種別等詳細について、資金の流れが明らかになることが重要なんですね。ですので、資金の流れを明らかにするという事で、内訳を記載すればいいというものではないということです。

○原田参事官 ほかにいかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは、ただいまいただいたコメントに対し、担当課から何かありますれば、お願いいたします。

○重山補佐 ありがとうございます。

保障措置ということで、核燃料物質の平和利用からの転用がないことの確認ということ



で、なかなか検査に関しましては、100%でなければ、必ずしも100%でなければいけないというわけでもないですけれども、99%合格しても1%転用を疑われるようなことがあれば目的を達成しないということで、なかなか指標として設定しづらい部分はあろうかと思うんですが、目に見える成果として、わかるように指標については工夫をさせていただきたいというふうに思っております。

資金の流れにつきましては、御指摘のとおりかと思いますが、口頭で先日の説明の際にも補足をさせていただきましたけれども、我々国が設置している分析施設の土地、建物の経費ということで、これは実際に土地、建物を持っている日本原燃のほうへの資金の流れというのが実際にありますので、それがわかるような形で修正をしたいというふうに考えております。

○原田参事官 よろしいですか。

それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、事業番号39番でございます。事業名称、保障措置環境分析調査事業でございます。

所見（案）でございますが、繰越額が大きくなった理由について、契約締結後の手続に時間を要したと言うことが主たる理由であるならば、そのことがしっかりとわかりやすいように記載すべきではないかと。

それから、活動指標については、試料分析依頼に対する達成率の記載も検討するべきではないかと。

それから、JAEAの関係ですが、落札率が可能な限り公開されるよう、引き続き指導されたい。これは採択先の先ほど御指摘いただいたのも同様のことだと思います。

以上です。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等あれば、お願いをいたします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 2点目は、「達成率」ではなく「対応率」だと思う。

○原田参事官 ほか、いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

それでは、ただいまいただいたコメント等につきまして、担当課から何かあれば、お願いいたします。

○重山補佐 コメントいただき、ありがとうございます。

試料分析に関しましては、確かにIAEAからの委託の試料の分析ということで、達成率と

いうよりも、貢献度、対応率で示すべきというのは確かにわかりやすい指標かと思いますので、検討させていただきたいというふうに思っております。

繰り越しの件につきましては、国際入札ということで、もともと5カ月以上の準備がかかるということはありませんでしたが、確かに実際に設置に至るまでに、スペックの確定であるとか、調達先決定後の手続が多かったということは現実としてありましたので、それがわかるような形で記載をしたいというふうに思っております。

ありがとうございました。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、次の事業について説明をお願いします。

○中崎補佐 続きますのは、事業番号40番、事業名称が大型混合酸化物燃料加工施設保障措置試験研究事業でございます。

こちらについては、私ども、ファクトの確認の質疑はあったかというふうに認識しておりますけれども、特に何かの御指摘があったという認識はございませんでしたので、引き続き、効率的な執行を行うことというふうな所見（案）を検討させていただきました。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等あれば、お願いいたします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 「引き続き、効率的な執行を行うこと」とあるんですが、ずっと執行率0%なんですね。これは原燃で2年遅れているので、対応が遅れているという事業だったかと思うんですが、機器の保管状況等の現状を明らかにすることが重要ではないかというコメントをさせていただいています。その辺に関して、もし御意見があるようであればお聞きして、所見に入れる必要がない状況であれば、入れる必要はないと思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

○原田参事官 どうぞ。

○小笠原委員 私もちよっとここの表現は違和感を感じたところでして、たしか議論の中には、やっぱり22年から25年まではずっと、設置するまでの間は待っていたと。今は三つの施設のうち二つは機構の中であって、もう一つは米国のほうにという話があったので。

実際に執行率はずっとゼロなわけですから、やはり、そういうほかの状況であるとか、今後どういうふうな、今年度において行う計画があるということをきっちり出された上で、この予算化があるというロジックにならないと、ちよっとこの文言の効率的な執行を行う

という1行だけですと、それを言い表わしたことにはならないのかなというふうに考えております。

○原田参事官 よろしいですか。

○飯島委員 私もちよっとこの表現は適当ではないような気がいたします。やはりレビューシート見た限りでも、どうしてこういう状況になっているかというのがあまり何かよくわからないところもありますので、これはこれで、こういう状況になっていて、今後どうなるかというのもある程度、見通しはもう少しどこかで補足していただけると、よりわかりやすくなるのではないかなという気はいたします。

○原田参事官 ただいいただいたコメント、御指摘等に対して、担当課から何かあれば、お願いします。

○重山補佐 機器の保管状況に関しましてですけれども、こちら、レビューシート自身は平成28年度の実績ということで0%。これは実際に実費がかかっておりませんので、0%ということで記載をさせていただいておりますが、29年度、本年度につきましては、JAEAで保管を含めた試験を行っているということで、こちらについては、契約をして実費が発生していますので、次回以降のレビューの中には実際に計画の中で保管する費用ということで執行率が入ってくるというような形になろうかと思えます。

計画として、確かに今延びていることで追加的な費用というのが発生していますので、こういったところをどのように書き込むかというのは、検討させていただきたいというふうに思っております。

それから、計画あった上でというのは御指摘のとおりかというふうに思えます。先日、御説明差しあげたとおり、やはり事業者側が計画を変更しないけれども、我々規制の立場としては審査の進捗状況というのを概ね把握をしておりますので、この乖離をどういうふうに埋めるかという部分と、それと、相手のある話でありますので、具体的には国際原子力機関、IAEAが分担している部分との調整しろという部分が生じてきますので、こちらにも実際に勘案した上で、実行的な計画を今後立てるという意味で、効率的な執行を行う、今後、効率的な執行を行うという意味で。

実際に今、現時点でとった予算を執行しないということ自身も、そういう意味では、実際の計画を反映した上での決断ということでもありますので、そういう意味を含んだ記載ではあるんですが、確かに一見、見た感じ、少し違和感を感じるというのは、こちらのほうも理解しますので、内容について検討させていただきたいというふうに思えます。

○原田参事官 どうぞ。

○小笠原委員 非常にこの数字だけ見ますと、やはり27年度は2億6,800万と予算化したけれども、ゼロであったとか、1,100万と予算化したけども、ゼロだったという、こういう過去の見積もりに対する実績というか、そういったものが続いているということなので、やはりそういう業務をずっと執行し続けるということではないということをごきちっと前提として、表現していただければと思いますので、お願いいたします。

○重山補佐 ありがとうございます。こちらの実態との乖離はあるのは承知の上ではあったんですが、やはり、事業者のほうで計画を変えない状態で、国がその計画に反して、国側の判断で予算を手当てしないということに対する悪影響があるのかなというふうに考えていたのが、今回、要求をした上で執行しなかったということにつながっているんですが。ただ、これによって、やはりさらに不整合であるとか、国際機関に対する混乱みたいなものが実際生じたということがありますので、こういったところを総合的に勘案して、今後どういう予算計画を立てていくのかというところに反映していきたいというふうに思っております。

○原田参事官 よろしゅうございましょうか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、事業番号20番、事業名称、原子力施設における地質構造等に係る調査・研究事業でございます。

所見（案）でございます。政策評価の指標と本事業のアウトカムの指標との関連性が明確にされている点はベストプラクティスとして全事業で同様に取り組んで欲しい。

活動指標の活動見込については目標に近い数字に設定されるべきと。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等あれば、お願いいたします。よろしゅうございますか。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 「活動指標の見込については目標に近い数字に設定すべき」という言い回しだとニュアンスが伝わらないのではないかと思います。ここでのポイントは、設定の根拠を明確にすべきであるということ。最低限にするか、どうするかと、非常に設定するのが難しいというような御説明だったかと思っておりますので、その辺、なぜ設定が難しいのか、それがわかるように説明がないと、評価ができないので、そういった対応をしていただき

たいということでございます。

○原田参事官 よろしいですか。

○小笠原委員 こちらについては、何か目標設定が最低だみたいな、最低水準で、とかというような表現もあったものですから、そのレベル感がちょっとわかりにくかったものですから、その辺を少し明確化していただきたいなという趣旨があったかと思います。

○原田参事官 ありがとうございます。

コメントに対して、担当課から何かあれば、お願いいたします。

○飯島首席調査官 御指摘ありがとうございます。

そのようなことを踏まえて、今後対応させていただきます。発表件数につきましては、今後は結構成果も出てくると思いますので、積極的な発表を図っていくということを念頭に、数値を設定したいと思っています。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

はい、お願いします。

○小笠原委員 細かいんですけども、この田淵委員の指摘のこのベストプラクティスとして全事業で同様に取り組んでほしいというか、既にこの関連性が明瞭にされている点がベストプラクティスなので、今後も全事業で同様に取り組んでほしいというニュアンスで私は解釈したんですけども、いかがですか。

○田淵委員 おっしゃるとおりです。この言い回しも非常にわかりにくい。要するに、ベストプラクティスとして全事業で取り組むのではないということです。これがベストプラクティスなので、横展開を図っていく必要があるのではないか、横展開していくといいのではないかというニュアンスです。

他にも例えば政策評価の指標ではなく測定指標とか、いろいろ文言、修正させていただきたいと思いますが、今申し上げたとおりのコメントということで修正いただきたいと思っています。

○中崎補佐 いろんところで文章表現が稚拙なところがございまして、申し訳ございません。補足させていただきますと、政策評価の指標設定自体が事前評価という形で、もう去年設定されてしまったものに対して行政事業レビューと比較していくということもあるんですが、そもそも政策評価の指標設定がそもそもそれで本当にいいのかということのも、実は見直さなくちゃいけない重要な点でございまして。これからちょっとそこも意識して、我々会計部局が政策評価の人たちとしっかりと連携して、政策評価の指標設定に対しても、

この予算の観点からそれが妥当かどうかというのをしっかりと打ち込んでいくというような連携をしっかりとやっていきたいというふうに考えております。

○田淵委員 その点に関してなんですけれども、私、総務省の政策評価審議会の委員もさせていただいておりまして、政策評価と行政事業レビューとの連携ということで強化を図るべしということなんです、担当が違ったりとか、いろいろ難しい点もあって、その辺も含めて、いろいろ各府省でも検討がなされているというところなんです。

補佐が最初におっしゃったのは、事前分析表の話だろうと思うんですが、政策評価では、前年度に事前分析表で指標を設定して、それに対して評価を行っていくということですので、多少のずれはあるかもしれませんが、全事業への横展開というよりも、規制庁として取り組んでいただきたいということなので。横展開できる事業、できない事業あると思います。政策があって、それを実現するために事業を実施しているという、そういう流れを常に職員の皆さんの中で持っていて、それでこういう形で政策評価とリンクが図れるものがあるのであれば、対応していかれるといいのではないかとということで、ベストプラクティスと申し上げました。

これまでの公開プロセスでも、何回か指摘をさせていただいているところでもあります。昨年の公開プロセスの講評のときにも、政策評価との連携という観点でコメントをさせていただいてもおりますので、ぜひ今、補佐がおっしゃったような形で、規制庁の中で御検討いただいて、職員のみなさんが戸惑わないような、混乱が生じないような形で評価を実施していただければと思います。

○中崎補佐 ありがとうございます。

○原田参事官 ほか、よろしゅうございましょうか。

ありがとうございます。

それでは、よろしゅうございますか、そちらも。

それでは、次の事業の説明をお願いいたします。

○中崎補佐 続きまして、事業番号36番、事業名称、原子力規制人材育成事業でございます。

所見（案）でございます。この事業で行ったプログラムの受講者がその後どうなったか、どうなったかというのは、つまりは原子力の関連に従事することになったかどうかということでございますが、そういったもののフォローアップを行った方がよりこの事業が高度化していくのではないかとということ。

それから、活動指標として研究プログラムの作成数の見込みが立てにくいということではありましたけれども、それであれば、もう少し違った形での指標というのにも検討すべきではないかと。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等があれば、お願いいたします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 1点目、この文章もかなり砕けた文章になっておりまして。要するに、当該事業で行ったプログラムの受講者について、フォローアップ、追跡調査をすることで事業の高度化を図りたい、というところなのですね。ですので、そういった方向で修正していただきたいと思います。

○中崎補佐 はい、承知しました。

○原田参事官 ほか、いかがでございましょう。

小笠原委員、何か。

○小笠原委員 ちょっとこれは、当日、私ではなかったと思うんですが、飯島先生だったかと思いますが、何かこの参加者云々というのではなくて、もっと応募状況とか、底辺から、募集段階から含めてとか、あとリピーターがどうであるとか、何かそういうような、幅広くというような御指摘をさせていただいたような気がするんですけど、いかがでしょうか。

○飯島委員 そうですね。私のほうからそのような趣旨のコメントさせていただいたと思います。こういうようないろいろな企画であるとか、プログラムの参加者を募るとするのは、非常に評価というのは難しく、やはりその人の満足度であるとか、あとは具体的に何人参加してあるとか、あとは、繰り返しどのくらい参加しているのかとか、いろいろな見方ができるかと思いますが、やはりそれは検討していただきたいと思います。

あとは、やはり一部の方が繰り返し、リピーターという観点もあるんですけども、同じ方が繰り返しというだけじゃなくて、いかに多くの方が参加していただいているのかという、そういう広がりという意味でも、やはり評価すべき点もあるかと思いますが、その辺はこの種の取組としてはいろんなところで検討がされているかと思いますが、ほかの事業等、取組ですね、例も参考にしながら、その辺のところの指標というのは御検討いただきたいというふうに思います。

○原田参事官 田淵委員、お願いします。

○田淵委員 今の点に関しては、私もプログラム別に分析することによって、課題を抽出して、改善につなげるとよいのではないかと。今の指標はプログラムの合計ですけれども、プログラム毎に見ないと見えない課題があるので、例えば参加者についても、今御指摘があったような、リピーターなのか、年齢層はどうかとか、あとは実施状況、いつ実施するのかとか、そういったものをプログラム別に分析することで課題が見えてくるので、そういった方向で検討をしていかれるとよいのではないかと思います。

○原田参事官 ありがとうございます。

ただいまのコメントについて、担当課からあれば、お願いします。

○森下課長 人事課長の森下でございます。

ありがとうございます。

まず、今回いただいた御意見を踏まえまして、来年度からのアウトカムのところ、プログラム数といったところは、今回いただいたようなものに変えていくというのにしたいかなと思っています。

そして、その中身につきましては、やっぱりちょっとそれぞれの大学で固有のやり方とか、何か事情があるかもしれませんので、大学ごとに相談をして、今、委員の皆さんからいただいたやつがどういう形でできるのかという形を詰めていきたいと思っています。

我々としては、一つは、やっぱり規制に興味を持ってもらう人材が増えてもらいたいと思っていますので、そういうのを一律にアンケートを我々のほうでつくって、参加した事業者、全部共通でとってくださいというのは、これはやってみたいなのというのを御意見いただいた後、検討して思いました。

それからあと、どこまで参加した人を追えるかにつきましては、参加している人が大学の1年生であったりとか、修士の2年生とか、いろんな学年とかもあったりすると、大学でそういう情報をどういうふうに管理していて、どこまでもらえるかというのがあるので、そういうようなところは大学と相談しながら、我々が追いたいような追跡の何かグループで、そういう数字が捕捉できるのか。あるいは、今いただきましたプログラムごとで、全部合算じゃなくて、こういう年齢層の者については、就職を間近にしている方とか、追えるけども、まだ若い方はちょっとまた、今言ったような意識のところだけとか、いろいろ現場の実態に合った工夫をしながら、新しい指標を入れてみたいと思っています。

どうもありがとうございました。

○原田参事官 よろしゅうございますか。



それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 続きますして、事業番号30番、事業名称、原子力規制高度化研究拠出金(NRC等)でございます。

所見(案)につきましては、このように記載させていただいておりますけれども、我々の見落とし、抜け等、もしございましたら御指摘いただければと思います。

○原田参事官 コメント等があれば、お願いをいたします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 引き続き、効率的な執行を行っていただきたいのですが、たしかこの事業は平成29年度に統合されていますよね。統合のメリットが発揮できるよう効率的な執行を図りたいという形で多分コメントさせていただいていたかと思いますので、そのように対応いただきたいと思います。

○小笠原委員 私も同意見ですね。これは、このままですとちょっと、引き続き、効率的な執行を行うということと、今回のこの予算というので、あれ、どうなっているのかなという話になるので、やっぱり、きちっと統合した事業なんだという中で、効率的な執行を行うというふうに追加していただければと思います。

○飯島委員 私もやっぱりちょっとこの表現では、不正確かなと思います。こうなっている状況というのは、先日十分お聞きしましたんで、その辺のところの意味が伝わるようにしていただければと思います。

○原田参事官 ありがとうございます。

担当課から何かあれば、お願いします。

○梶本管理官 コメント、どうもありがとうございます。

そのように記載していきたいと思います。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 続きますして、事業番号43番、事業名称、放射能調査研究に必要な経費でございます。

所見(案)でございます。米国原子力艦に関する活動実績(アウトプット)の記載は、当初見込み欄を対応率100%と記載し、活動実績の欄は実際の測定件数の比、算定式を明示した上で示すほうが適切ではないかと。

それから、得られたデータの公表については、国民の目が届きやすいように工夫してほ

しいという2点でございます。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメントがあれば、お願いいたします。

田渕委員、お願いします。

○田渕委員 2点目ですけれども、「データの公表は国民の目が届きやすいように工夫を行うべき」とは申し上げておりません。モニタリングデータについては、国民の皆さんの目に届きやすいように、です。目が届くのではなくて、国民の皆さんにそれを認識していただけるように工夫をして、そのデータを有効に活用すべきであるというコメントをさせていただいています。目が届きやすいと目に届きやすいでは意味が全く違うので、修正いただきたいと思います。

○中崎補佐 はい、承知しました。

○原田参事官 どうぞ。

○小笠原委員 ちょっと、たしか前回の議論の中で、この支出先上位10社リストと実際のこちらの表のほうの予算との額が整合しないという話があったかと思えますんで、そういったところの整合性も合わせるというところは……。

○原田参事官 数字のですね。

○小笠原委員 ええ、数字のですね。

○中崎補佐 はい、承知しました。

○原田参事官 どうぞ。

○田渕委員 1点目ですけれども、「米国原子力艦に関する活動実績の記載は」となっているんですけれども、原子力艦の寄港予定が把握困難であるのであれば、ということだったんですよね。要するに、寄港予定は把握が困難なので、寄港されたときにきちんと対応していますよということを言いたいということだったと思うんです。

「活動実績の記載は」ですと、非常に平面的な言い回しになっておりますので、原子力艦の寄港予定が把握困難であるのであれば、寄港したときにしっかりそれに対して対応しているという形で活動実績を示す「方が」ではなくて、「ことが適切」であるということでございます。

○原田参事官 ありがとうございます。

ただいまいただいたコメントに対して、担当課から何かあれば、お願いします。

○監視情報課 御指摘を踏まえて、適切な表現に修正したいと思います。誤記載のところ

についても、適切に対応したいと思います。

○原田参事官 よろしゅうございましょうか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 次、事業番号44番、緊急時対策総合支援システム整備等事業でございます。

所見（案）でございます。情報表示のあり方についての検討方法について、設計者側だけでなく利用者側の視点も取り入れて検討をすすめてほしい。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等あれば、お願いいたします。

田淵委員、お願いします。

○田淵委員 設計者側だけでなく利用者の視点「も」というよりも、むしろ利用者の視点「を」しっかり取り入れて、検討を実施していただきたいということでございます。

○原田参事官 よろしゅうございましょうか。

ただいまいただいたコメントに対して、担当課から何かあれば、お願いします。

○武山課長 御指摘を踏まえて、対応してまいります。

○田淵委員 もう一つ、「スピード感を持って」ということを申し添えたいと思います。

○原田参事官 担当課からは何かございましょうか。

○武山課長 いや、特にございません。そのとおりであります。

○原田参事官 よろしゅうございましょうか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号46番、海洋環境放射能総合評価事業でございます。

所見（案）でございます。資金の流れに関して、外注先も明記するなどにより詳細に記載すべき。これはちょっと先ほどから御指摘いただいているようなことかと思っておりますけども。

○原田参事官 ただいまの説明について、コメント等あれば、お願いいたします。

お願いします。

○田淵委員 今、補佐がおっしゃったとおり、対応していただきたいと思います。

○原田参事官 ありがとうございます。

担当課から何かあれば。

○武山課長 特にございません。

○原田参事官 ありがとうございます。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 事業番号47番、原子力防災専門人材育成事業、資料でいうと5ページ目に入ります。

所見（案）でございます。実施した研修がその後の業務に有効であったかどうかを測ることが大事であり、こうした面も指標化すべき。

点検・改善欄の「事業の有効性」において、見込みに比して活動実績が未達であるにもかかわらず○と記入されているので、この記載ぶりについて検討すべき。検討すべきというか、しっかりと点検すべきということかと思えます。

「受講者から高い評価を受けている」という記載があるが、その根拠となる指標が設定されるべき。

研修のアナウンス方法を見直すべき。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明につきまして、コメント等あれば、お願いいたします。

小笠原委員、お願いします。

○小笠原委員 こちらについては、前回、こちらに出ていないアンケート結果などもあったかと思えますし、その後の追跡調査というか、いうようなこともできればいいのではないかなという提案をさせていただいたかと思えますので、その辺もちょっと加えさせていただければと思います。

○原田参事官 田渕委員、お願いします。

○田渕委員 文言の話になるのですが、1点目に関しては、「実施した研修がその後」というよりも、研修受講後のフォローアップ、追跡調査を実施し、その後の業務に有効であったかを確認することが重要である、ということですね。それを「指標化すべき」で終わるのではなくて、指標化して、業務改善につなげなければいけないので、「業務改善につなげるべき」ということです。

2点目も、活動指標だけになっているんですが、実は成果実績についても自治体の全てが参加できていない、活動実績についても6指標のうち4指標が未達であると、具体的にこういう形でコメントさせていただいたほうがわかりやすいのではないかと思います。要するに、実績、事実、根拠に基づいた点検を行うべきであるというところですね。「記載ぶりについて検討すべき」ではなくて、実績に基づいた評価を実施すべき、ということです。

○原田参事官 ありがとうございます。

ただいまのコメントに対して、担当課から何かあれば、お願いします。

○武山課長 1ポツ、最初のやつは追跡調査を行うということが大事だということと、それを次の改善とかに役立てるとということが大事だということで、御指摘も踏まえて考えたいと思いますし。

あと、先ほどの実績に基づいて評価をするというところについても、そのとおりだと思いますので、そのとおりにやっていきたいと思います。

○田淵委員 もう1点、よろしいですか。

○原田参事官 どうぞ。

○田淵委員 最後の「研修のアナウンス方法を見直すべき」ですが、参加者が例えば未達の場合には、どこが要因を分析するのか、規制庁なのか、委託先なのかというような確認をさせていただいて、いろいろなパターンがあるというお話だったかと思います。そういったところを含めて、全体の制度設計を見直す必要があるのではないか、アナウンスに関してはどこが対応するか、しっかりと整理をする形で、全体の制度設計を見直す必要があるのではないかというコメントをさせていただいたかと思いますので、こちらも、「研修のアナウンス方法を見直すべき」ではなく、今申し上げた観点で整理をしていただきたいと思います。

○原田参事官 担当課から何かありますか。

○武山課長 だから研修事業、この事業自体は意義があるというふうに、たしか評価されていたと思うので、だから、やり方ですよね。要するに責任分担とか、役割分担とか、そういうところを少しちゃんときっちり……。

○田淵委員 そうですね。

○武山課長 やってくれと、そういうことだと理解してますんで。わかりました。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、48番、避難指示区域等における環境放射線モニタリング推進事業委託費でございます。

所見（案）でございます。点検・改善欄について、不用率の理由、2者応札であったため入札価格がより低下したとあるけれども、一方で、落札率が94%であることを鑑みると全体の執行率の低さを説明できているとは言いがたいので、真の、しっかりとした点検をすべきということかと思えます。

それから、同じ欄の競争性の確保の欄においてですけれども、「随意契約となったものはないか」といったところに、随意契約の案件があるので、しっかりと「有」というふうにして、点検すべきということであろうかと思えます。

それから、その他コスト削減や効率化に向けた工夫の欄については、無償貸付を行ったことによる備品費の削減というのが工夫として書かれているけれども、それが本当に有償貸与した際との差額が不明であるので、本当に工夫と言えるのかという観点から、記載を見直すべきと。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明について。

小笠原委員、お願いします。

○小笠原委員 今御説明いただいたように、ちょっと最後の言葉が、理由を明記するといふところに主眼があるのではなくて、やっぱり、そこをしっかりと点検すべきだと、理由を明らかにして点検をすべきだということだと思えますので、その辺を直していただきたいと思えます。

最後の点も、いや、それが違うのであれば、もっともう一度掘り下げてみて、どういうところが本当にここでいう備品費の削減と言えるのかというのは、やはりきっちりと対外的に明らかにしていただいたほうがよろしいかと思えます。

以上です。

○原田参事官 田渕委員、お願いします。

○田渕委員 自治体の、市町村等の要望を十分に踏まえているというお話だったかと思えますけれども、私がここで申し上げたことは、引き続き自治体のそうしたニーズを十分に踏まえて、帰還を希望されている方々が安心してお戻りになれるようにしっかりと対応していただきたいということで、その点について付け加えていただきたいと思えます。

○原田参事官 ありがとうございます。

ただいまのコメントに対して、担当課から何かあれば、お願いします。

○武山課長 特にございません。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 続きまして、事業番号49番、環境放射線モニタリング国際動向調査等事業でございます。

所見（案）でございます。点検・改善欄の「事業の有効性」において、見込みに比して活動実績が未達であるにもかかわらず○と評価、点検されているので、記載ぶりについて検討すべき。これもちょっと前の原子力防災専門人材育成事業のほうでいただいた御指摘のとおりかと思えますけれども。

○原田参事官 ただいまの説明について、コメント等あれば、お願いいたします。

○田渕委員 今、補佐がおっしゃった形で対応いただきたいと思えます。

○原田参事官 ありがとうございます。

それでは、担当課から何かあれば、お願いいたします。

○武山課長 特にごさいません。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

それでは、次の事業の説明をお願いします。

○中崎補佐 最後に、6ページ目でございますが、事業番号56番、航空機モニタリング運用技術の確立等事業でございます。

点検・改善欄のその他コスト削減や効率化に向けた工夫の欄という行政事業レビューシートの中の欄について、点検・確認を行うことによるコスト削減や効率化に向けた取り組みの具体性が判然としないため、具体的な記載へと見直すべき。これも今までちょっと御議論あったように、記載というよりは、しっかりと点検をするということかと思えます。

それから、国費投入の必要性の全ての欄と事業の効率性の二つ目の欄、本事業の妥当性について論じられていないので、これも記載を見直すべきではなくて、しっかりと点検するべきということかと思えます。

以上でございます。

○原田参事官 ただいまの説明について。

田渕委員、お願いします。

○田渕委員 全面的に点検内容を見直していただきたいということでございます。工夫について、運営費交付金とか、精算で対応しているというお話があったかと思うんですが、それは工夫とは言えないのではないかというコメントもさせていただいております。その辺も取り入れながら整理をしていただくといいと思えます。

2点目、「本事業の妥当性について論じられていないので」というよりも、項目に即した説明がなされていないということですね。

もう1点、JAEAの落札率に関しても、この事業でもコメントさせていただいていたかと

思いますので、追記していただきたいと思います。

○中崎補佐 はい、承知しました。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

○小笠原委員 私も同様のところなんですけども、少し、今の状態ですと、本当にただのチェックで、工夫というのは全く、ちょっと感じ取れない部分ありますので、これは評価が丸なのかどうなのかという部分ですね、このシートの中で。これももう一度再点検の上、記載を見直していただきながら、点検をしていただきたいという趣旨でございます。

○原田参事官 ありがとうございます。

ただいまのコメントに対して、担当課から何かあれば、お願いいたします。

○武山課長 工夫かどうかということについては、点検をして、そうかどうかによってあれしたいと思いますし……。

○小笠原委員 判別して。

○武山課長 ええ、判別したいと思いますし、説明がなされていないところについては、きちっと、本当にそうなのかということについても一回見直しさせていただきます。

○原田参事官 よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

本日の議題は、以上となります。

それでは、事務局から今後の予定について説明をお願いします。

○中崎補佐 今後の予定でございます。資料2を御覧いただけますでしょうか。

行政事業レビューの公表について、でございますけれども、ちょっと事務的に御連絡はさせていただいておりますけれども、現在のところ、8月4日で調整できないかということで御連絡をさせていただいているところでございます。また詳しい場所だとか決まりましたら御連絡をさせていただきます。

それから、8月末日でございますけれども、財政法の規定によりまして、概算要求書を財務大臣宛て提出するという作業がございまして、その後、速やかに、今回もろもろ御指摘をいただきましたことを踏まえまして行政事業レビューシートの改善、しっかりと点検をしていく、それを踏まえて、概算要求をする。その結果のレビューシートをしっかりと公表するという作業に取りかかるという予定でございます。9月上旬も引き続き、そういった今までのレビューの結果を一覧的にまとめた資料を公表していくというふうな予定でございます。



以上でございます。

○原田参事官 それでは、全体を通じまして、御意見、御質問等あれば、お願いいたします。よろしゅうございましょうか。

それでは、本日の第3回有識者会合を終了いたします。

長い時間御審議いただき、ありがとうございました。

以上